

平成24年度「水環境文化賞」を受賞して

NPO法人ふくおか湿地保全研究会理事長 服部卓朗

この度は、水環境文化賞という素晴らしい賞を授与いただき、まことにありがとうございます。当会のような小さな団体にとっては、言葉では言いあらわせない荣誉であり、今後の活動の励みになります。会員一同を代表して、御礼申し上げます。

当会は、福岡市博多湾とその周辺における鳥類の生息環境の保全と失われた自然環境の再生を目的として、2003年に10名ほどで設立した自然保護団体です。活動を実践していくうちに、鳥類だけではなく、植物・魚・カニ・昆虫などいろいろな生き物に詳しい方達（九州大学の教員や大学院生なども含め）が仲間に加わってくださり、活動の幅が広がってきました。2010年にNPO法人になり、現在では小学生から定年退職者まで会員数約100名の会になりました。会のキャッチフレーズは「豊かな自然を次世代に残そう！」です。

主な活動内容は、以下のとおりです。

- (1)鳥類の生息状況を把握するための採餌・休息・繁殖環境の調査、湿地環境に生息するその他の生き物の調査
- (2)調査結果に基づき行政等に保全策提言や情報を発信
- (3)市民の方への啓発活動
- (4)保全したい場所の清掃や傷病鳥の救出

当会は、「地域・行政・NPO」の三者一体で保全を行っていくことが一番大事なことだと考えています。心がけている「正確で密な調査」は、行政や各自然保護団体からも高い評価をいただくことができるようになってきました。調査で得ることができた情報を効率よく生かすために、行政等には頻繁に調査結果を伝え、またCEPA（Communication, Education, Participation and Awareness）という人間と生き物との良好な関係作りのための学習広報手法を取り入れた様々な活動を市民の方と行っています。

現在、わが国では人口減少によるマイナス面が多く言われていますが、視点を変えれば高度成長期に失われた環境を取り戻す機会になる可能性があるのではないかと思います。今後も、生物多様性保全に努力していく所存です。

以下は、活動の事例です。

① 生き物達の生息地の保全と再生

福岡市東区多々良川河口域 〈絶滅危惧鳥類クロツラヘラサギの甍作り〉許可を得て、中洲の一部の草を刈ったり倒したりして休息場を作ったところ、クロツラヘラサギが定着するようになってきた。〈鳥類休息場作り〉県土整備事務所や河口域の鉄道橋の工事を行っていたJR九州と協議し、満潮時の休息場を作っていただくことができた。〈絶滅危惧魚類トビハゼ生息場所保全〉護岸工事予定の場所がトビハゼの生息地だったため、県土整備事務所と協議、工事後に干潟を再生していただいた。福岡市東区名島海岸 福岡市の公園化工事に際し博多湾の貴重な岩礁地帯がなくなることを憂慮、

WWF（世界自然保護基金）ジャパンと共同で市に要望書を提出。その結果、人工の岩礁を再生することができ、現在多くの鳥類が利用している。

福岡市東区西戸崎海岸 絶滅危惧鳥類コアジサシの繁殖地であるため、市港湾局と協議し、保全活動を協働で行っている。

福岡市西区今津 自治会・市環境局と協働で廃材などを利用した鳥類の休息場を設置した。

② 清掃活動・保護活動

多々良川河口域 毎月定例で清掃と観察会を行っており、「干潟ってヘドロではなくたくさんの生き物がいる場所なんだ」と実感していただいている（写真）。

福岡市南区井尻上池 十数年前はゴミだらけの場所だったが当会会員の努力により生き物がいっぱいになった。毎月定例で清掃と観察会を実施。

福岡市東区名島海岸 市委託の業者が行っていた海岸ゴミ回収を、鳥類の春秋の渡りの時期には餌環境に配慮したゴミ回収が必要と考え、行政・地域と相談、地域の方と当会とで行っている。

ゴミ問題の啓発 釣りゴミ等が原因の傷病鳥を多数保護。啓発看板の設置やパンフレットを作成配布。釣り人グループと一緒の清掃活動や釣りの専門学校生への講義も実施。

③ 啓発活動

小中学校や公民館などの自然観察会などに講師として協力

- ・講演会を開催
- ・「コアジサシの子育て応援隊」（市民の方とコアジサシの繁殖支援活動を実施。国営海の中道海浜公園や福岡市の協力をいただいている）
- ・環境イベント等に多数出展
- ・『生命の輝き』作品展の開催（身近な生き物を題材にした公募作品や、知ってほしいことをまとめた資料などを展示）

④ 情報の発信

- ・ホームページによる情報発信
- ・学会等で発表
- ・提言書やガイドブックを作成配布



写真 毎月定例の清掃活動